

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600422		
法人名	医療法人社団 聖パウロ会		
事業所名	グループホーム今日香 さくら		
所在地	静岡県磐田市上野部1519-5		
自己評価作成日	平成23年11月24日	評価結果市町村受理日	平成24年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokouhyou.jp/kai gosip/infomationPublic.do?JGD=2276600422&SCD=320&PCD=22
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成23年12月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域で、一人ひとりがその人らしい穏やかな生活を送っていけるよう、あえて決まりを作らずのんびりと過ごせる空間作りを心がけている。平屋建てであり、自由に外に出て過ごしていただけるため施設前にはイングリッシュガーデンを造っており、入居者様が安全に散歩できるようになっている。
また、医療法人であるため、週2回の医師の往診、1日2回の看護師の訪問があり、重度化しても対応できるような体制を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は入居者に寄り添い、困難な場合も細やかな対応をして、一人ひとりの思いや意向を尊重しながら、穏やかに暮らせる日常生活の支援をしている。医療法人であるため医療の連携体制が整い、家族の協力を得てチームとして職員は多くの看取りを経験し、その思いを毎日のケアに活かしている。
災害対策に対する意識は高く、避難誘導や重度の方の搬送方法を身に付け、誰でもが対応できるように消防署や地域とも協力体制を築いている。事業所前のイングリッシュガーデンは地域の人や保育園児たち、花の季節には外部からの訪問客が来て、交流の場となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時や職員会議、勉強会などで理念の説明をしている。	「お互い様の心」の理念を職員全員が共有し、入居者一人ひとりを人生の先輩として接する中で、入居者と職員、職員同士もお互い様の関係となり実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、祭りや清掃活動などの行事には参加させて頂いている。 施設の敬老会なども地域の方に参加して頂いている。	散歩で出会う近隣の方と挨拶をし、地域の清掃活動には職員が参加している。事業所前のイングリッシュガーデンを毎日手入れにくる近所の方や、近くの保育園、幼稚園児が来て、庭に出ている入居者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年はほとんど出来ておらず。 今後、しっかりと行っていかなければと考えている。	今年の前半は開催が少なかったが、9月以降は毎月開催し、行政や地域、家族の参加があり、状況報告だけでなく、双方向に話し合いをしてサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一回の介護相談員訪問があり、お話をさせて頂いている。 市の職員さんとは、分からない事があれば連絡し、確認をさせて頂いている。	運営推進会議で事業所の現状を伝え、相談ごとがあれば電話をして話をする等の協力関係が出来ていて、事業所連絡会にも出席をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。 勉強会も行っており、職員全員がしっかりと理解出来ていると考えている。	玄関の施錠はなく、出て行く気配があれば連携とさり気ない見守りで、身体拘束しないケアを実践している。夜勤者を含め全員が参加できるように、月2回同じ内容の勉強会をして、正しい理解に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行っており、職員全員が理解できていると考えている。 常に職員同士で話し合い、言葉遣いや対応の仕方など、気になった事は注意し合って防止に努めている。		

静岡県(グループホーム今日香 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年、成年後見制度を取り入れた方がいるため、その成年後見人が選任された後、職員会議で職員全員に説明を行った。その後も、ご家族や選任者とも話をさせていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。 ご家族の面会時にはなるべく話をしており、その中で意見等があった場合には、職員会議などで話し合い、改善に努めている。	面会時は管理者だけでなく職員も家族と話し、面会の少ない家族へは電話をして話を聞いている。敬老会を兼ねた家族会への参加者は多いが、意見や要望はほとんど出ない。	前回の目標達成計画の課題に継続して取り組み、本人や家族が気軽に意見や要望を表せる工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の職員会議で職員が意見を出しやすい雰囲気を作っている。そこで出た意見はその時にみんなで話し合っている。また、なるべくフロアに入るよう心がけており、職員の意見を聞けるよう努めている。	管理者は会議の持ち方に工夫をして、係りの職員から話をする事で自発的に意見が出てきて、レクリエーション係りと食事係りから行事食の提案があったり、物品係りを中心に話し合い購入を決めたりして、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年数によって支給額が上がる。 資格取得に応じて資格手当が支給される。また、スキルに応じて支給額が上がる、介護職手当がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のための研修も、法人で行っている。法人以外の研修にも参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	資格取得のための勉強会は、法人内の他施設と合同で行っている。 他施設から入居された方がいるため、その施設の方と事業者連絡会議などで会うと話をさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にTELだけでなく、必ず1回は本人と会って話を聞いている。(自宅、病院、施設など、本人が生活しているところへ訪問し、状態の確認を行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に何度か会って話を聞くことで、しっかりとアセスメントをとり、不安の軽減に努める。その人が生活している所へ訪問し、本人も一緒に話をする事で、安心感を持ってもらえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム対象者の相談ばかりであるため、入居希望の相談しかないため、現在は行っていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いや洗濯物干し、掃除などを職員と一緒にやる事で、自分の存在価値を見出してもらおう。あまり声かけをせず、出来る限り自然に何かをしたくなるような環境作り、ケアを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時にはなるべくコミュニケーションを多くとり、現在の状況を報告している。変化が見られた時には、その都度連絡し、ご家族の意見を聞きながら対応している。行事がある時にはご家族にも参加して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、地域の友人や親せきの方にも面会に来ていただいている。面会だけでなく、手紙の交換や外出もして頂いている。 今まで通っていた美容室や歯科、眼科などにも行くことができるよう対応している。	近隣の入居者が増えて、面会に来た家族が他の入居者と顔見知りであったり、知人であったりして、訪れる方が多くなっている。入居期間が長くなり、同じテーブルの仲間が馴染みの人になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方同士を隣の席にし、コミュニケーションがとりやすい環境づくりを心がけている。居室ではなく、和室で休んでいただくなど、体力があまりない方も、他者の姿を傍で感じていただけるようケアに努めている。		

静岡県(グループホーム今日香 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最後までお世話をさせていただいており、ここから次の施設や病院に移る入居者様がいないため、現在は行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や態度などから、本人の求めている事を少しでも読み取り、ケアに生かしていけるよう心がけている。困難な場合でも、こまめに声かけし、反応を見ながら対応している。また、入浴中や外出時など、1対1になると話をしてくれる方もいるため、状態に応じて対応している。	困難な方も表情の変化を見逃さず気付きは申し送りやカンファレンスで共有し、職員が同じケアができるようにしている。ポータブルトイレでの「冷たい」の一言から便座シートを付けたり、転倒が増えてきた方でも和室に対する拘りを尊重した対応をする等、本人本位の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人やご家族から情報を得たり、実際に住んでいた自宅へ訪問させて頂いたり、今日香で生活を送っている中で知り得た情報を、なるべく多くプランに取り入れるよう心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活記録に細かく1日の状態を残す事で、その日いなかった職員にも把握しやすいように努めている。また、フロアごとにノートを作り、変化があったら記入し、その後カンファや会議で話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今本人が困っている事を把握し、職員、ケアマネ、ご家族の意見を聞き、それらを取り入れながらプランを作成している。また、朝のカンファ時に1人ずつ1カ月評価を行い、変化が見られたら変更していくよう努めている。	2ユニット合同の朝のカンファレンスで、1～18日は毎日一人ずつ1カ月評価を行い、家族に「前回の計画と今回の評価」を説明して意見を聞き、医師、看護師、訪問リハビリ等の意見を取り入れ計画を作成し、状態の変化により変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の様子を記入している。朝夕の申し送り時や、それぞれ気付いた事があれば、話し合ったり「なんでもノート」に記入して把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の希望があれば、外出や外泊、今日香に泊まっていただく事も出来るようにしている。また、状況によっては往診に来てもらったり病院に受診したりする事ができる。(24h対応)		

静岡県(グループホーム今日香 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入しているため、何かあった時には協力してもらえるようになっている。地域の消防団の方にも防災訓練や会議に参加してもらっており、地域との関わりを少しずつ広げている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2回/W西遠クリニックより往診に来る。それ以外でも、状態に変化が見られた場合にも往診に来てくれたり、すぐ受診出来るよう対応してくれている。	以前からのかかりつけ医に家族と受診する方もいるが、入居時の説明でほとんどの方は協力医に変更している。医療法人であるため訪問看護や訪問リハビリとも連携が取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2回/1日 西遠クリニックの往診部より看護師が来てくれている。状態に応じてすぐDrへ連絡し、対応してくれる。また、職員が分からない事を質問すると、教えてくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはご家族と一緒に説明を聞き、対応している。退院までの間は出来る限りこまめに病院とご家族に連絡し、早期退院に向け対応している。医療法人のため、ほとんど法人内で対応出来ており、あまり他院と関わることがない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に、看取りケアについての説明をしている。その上で、何かあった時に備え、往診部との関わりを多くとっている。状態が悪化した際にはその都度ご家族と話し合い、1つ1つ方針を決めている。24h体制をとっているため、ご家族にもご理解を頂いている。	入居時に「看取りの指針」を説明し、体調の変化でその都度家族に確認をして話し合い、医療と連携し家族の協力を得ながら多くの看取りを経験している。急変時に備え経験の浅い職員とベテラン職員が夜勤を組むようにして、職員の不安な気持ちにも配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故対策マニュアルを作成しており、勉強会も行っている。施設や地域の防災訓練時に、搬送訓練や応急処置の方法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3回/年 防災訓練を行っている。それぞれ、火災、地震、水害を想定した訓練を行っている。また、地域の方にも説明し、居室のドアの上部に色分けした飾りを付けてあり、それぞれに誘導方法が違ってもすぐに分かるようにしてある。	全介助、一部介助、自立の色分けカードをさり気なくドアの上部に付け、玄関には同じ色分けの見取り図があって、事業所の現状を消防署と消防団に説明し、自治会の災害対策会議に出席して協力体制を築いている。食糧や水、毛布等の備蓄がしてある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人のその時の状態や気分に合わせて声かけや対応の仕方を変えている。重度の方に対しても、1動作するごとに声かけをし、その人の反応を見ながらその都度対応を変えてケアに努めている。	入居時に本人と家族に確認し「～ちゃん、じいじ」と呼びかける方もいて、方言を交えた親しみやすく温かな声かけをしている。職員が常に入居者に目を配っていて、一人ひとりに細やかな対応ができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で本人の考えや思いが感じられるよう、声かけの仕方をその都度変えて本人が意思決定出来るよう、心がけている。重度の方に対しては、表情や仕草に注意し、本人の気持ちをくみ取る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者用の日程表を作らず、1日の決まりも決めず、その人らしい生活を送れるよう心がけている。みんなで何かをすることを嫌う方が多いため、歌をうたったり仕事をしたり散歩したりと、それぞれ自由に過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容に関しては、本人の希望がある時は美容院に行ったり、施設に来ていただいたりして対応している。化粧なども本人の希望で気分によって自由に行ってもらっている。髪型や髭の形など、こだわりがある方がいるため、希望をかなえてあげられるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平日の副菜のみ給食を利用しているため、盛り付け、配膳を入居者と一緒に行っている。食材を切ってくれたり、施設の庭にある菜園の野菜の収穫を一緒に行ったりする事もある。食後は自分の食器を自分で片付けてくれる方もいる。	副菜は法人の給食センターから届き、気付いたことや入居者の要望を配達時に伝え、メニューや食品の固さ等が変更されている。主食、汁物、おやつ、日曜日の食事は職員が作り、一緒にテーブルを囲んで会話をしながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量をチェックし、足りない分は他のもので補えるよう気を付けている。普通、キザミ、ミキサーの3種類に分け、状態に合わせて対応している。ムセがある方にはとろみを付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は行えておらず、お茶を飲む事に対応している。 起床時と入床時の口腔ケアは見守りで、介助が必要な方は一部介助、マウスケアを行っている。		

静岡県(グループホーム今日香 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、1人ひとりの状態を把握し、座位の保てる人は無理のない程度にトイレでの排泄をしてもらえようケアしている。状態によって、又は時間帯によってオムツとりハビリパンツを使い分ける事もある。	昼間は寝たきりの方以外はほとんどの方がトイレで排泄し、夜間のみポータブルトイレを利用する方、オムツの方もいる。立位困難な方も体調を見ながら排泄の意向に対応し、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	天気が良い日には散歩に行き、少しでも運動になるように心がけている。 食事でも、水分を多く摂ったり、おやつ時にはヨーグルトを食べてもらったり、おいもなどの繊維質の物を食べてもらうなど気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があればいつでも入浴する事が出来る。入浴チェック表に記入しており、あまりにも入っていない方に対しては、声かけをしている。拒否がある方に対しては、声かけの仕方や時間帯を工夫している。	いつでも入浴が可能だが、毎日又は1日おきに昼食後2時から入浴し、寝たきりの方は午前中に2人介助で3日に1回は入浴している。拒む方には職員を交代して誘ったり、風呂場に誘導し靴下が濡れたからと促す等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は決めておらず、それぞれが自由に入床している。眠れないと訴える時には、少し話をしたり、添い寝したりして安心して休んで頂けるよう努めている。また、昼間に少し散歩などで体を動かす事で、夜間眠りやすくなるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの記録の中に処方箋を入れ、職員全員が把握できるようにしている。状態に変化により薬が変わった時は、申し送りや連絡ノート、フロアノートに記入し、職員全員がすぐに把握できるよう対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や買い物、図書館で本を借りるなど、本人の希望に応じて対応している。重度の方も、居室内に季節に合った物を置いたり、なるべくフロアへ来て他者と触れ合う時間を作れるよう心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば散歩や買い物、ドライブなどに出かけている。地域の祭りにも自治会の方達の協力で参加させていただいており、お酒や食べ物もいただいている。	天気やタイミングを見て入居者の希望を聞き、公園や神社、足湯等にドライブに出かけたり、車椅子の方を入居者が押して散歩に行っている。寝たきりの方も一緒に出かけ、車に乗せて緊急時の移乗方法を職員が共有する機会にしている。	

静岡県(グループホーム今日香 さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が所持したいという時は、ご家族と相談した上で、本人に持って頂いている。買い物は自分の好きな物を選んでもらい、支払い時には、なるべく本人がお金を払えるよう声かけをしながらケアしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	TELの訴えある時にはその場で対応し、手紙が届いたら返事を書いてもらうなど、前もってご家族に確認をしておき、日々の対応を行っている。出来る限り、いつでも対応できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの家具が家庭にある物と同じサイズになっているため、不快感をあまり感じることなく過ごしてもらえるよう工夫している。タペストリーや花、鯉のぼり、雛飾りなど、季節を感じられるような共有空間づくりを心がけている。	平屋造りの中心に広いキッチンがあり、全ての扉が開いているのでユニット間を自由に行き来できる。フロアは排煙窓から日が差し込み明るくゆったりとしていて、和室には炬燵が置いてあり昼寝をする方もいて、生活感のある共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの席は、食事中も食事以外でも仲の良い人と話が出来るよう、工夫している。TVの周りをソファで囲み、くつろげる空間として使用して頂いている。フロア横の和室もその時その時に合わせて自由に使用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族と話し合い、本人が今まで使っていたなじみの物をなるべく多く持って来て頂くことで、本人にとって居心地の良い空間となるよう心がけている。居室内の家具などの配置も、なるべく本人が入居前に使用していた状態に近い配置にしてもらえるよう、お願いしている。	畳敷きにして自宅の自室と同じ配置の居室にしている方や、家具があれば壊してしまうので大切にしている鏡台以外は何も置いていない居室もあって、家族と相談をしながら本人が過ごしやすい配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂は、入口の戸に文字を入れる事で、混乱することなく自立した生活が送れるよう、工夫している。また、いろんな所に手すりが付いているため、体力の低下している方にも対応出来る。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600422		
法人名	医療法人社団 聖パウロ会		
事業所名	グループホーム今日香 ほし		
所在地	静岡県磐田市上野部1519-5		
自己評価作成日	平成23年11月24日	評価結果市町村受理日	平成24年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kai gokouhyou.jp/kai gosip/infomationPublic.do?JCD=2276600422&SCD=320&PCD=22>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成23年12月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域で、一人ひとりがその人らしい穏やかな生活を送っていけるよう、あえて決まりを作らずのんびりと過ごせる空間作りを心がけている。平屋建てであり、自由に外に出て過ごしていただけるため施設前にはイングリッシュガーデンを造っており、入居者様が安全に散歩できるようになっている。

また、医療法人であるため、週2回の医師の往診、1日2回の看護師の訪問があり、重度化しても対応できるような体制を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時や職員会議、勉強会などで理念の説明をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、祭りや清掃活動などの行事には参加させて頂いている。 施設の敬老会なども地域の方に参加して頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年はほとんど出来ておらず。 今後、しっかりと行っていかなければと考えている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一回の介護相談員訪問があり、お話をさせて頂いている。 市の職員さんとは、分からない事があれば連絡し、確認をさせて頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。 勉強会も行っており、職員全員がしっかりと理解出来ていると考えている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行っており、職員全員が理解できていると考えている。 常に職員同士で話し合い、言葉遣いや対応の仕方など、気になった事は注意し合って防止に努めている。		

静岡県(グループホーム今日香 ほし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年、成年後見制度を取り入れた方がいるため、その成年後見人が選任された後、職員会議で職員全員に説明を行った。その後も、ご家族や選任者とも話をさせていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。 ご家族の面会時にはなるべく話をしており、その中で意見等があった場合には、職員会議などで話し合い、改善に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の職員会議で職員が意見を出しやすい雰囲気を作っている。そこで出た意見はその時にみんなで話し合っている。また、なるべくフロアに入るよう心がけており、職員の意見を聞けるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年数によって支給額が上がる。 資格取得に応じて資格手当が支給される。また、スキルに応じて支給額が上がる、介護職手当がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のための研修も、法人で行っている。法人以外の研修にも参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	資格取得のための勉強会は、法人内の他施設と合同で行っている。 他施設から入居された方がいるため、その施設の方と事業者連絡会議などで会うと話をさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にTELだけでなく、必ず1回は本人と会って話を聞いている。(自宅、病院、施設など、本人が生活しているところへ訪問し、状態の確認を行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に何度か会って話を聞くことで、しっかりとアセスメントをとり、不安の軽減に努める。その人が生活している所へ訪問し、本人も一緒に話をする事で、安心感を持ってもらえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム対象者の相談ばかりであるため、入居希望の相談しかないため、現在は行っていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いや洗濯物干し、掃除などを職員と一緒にやる事で、自分の存在価値を見出してもらおう。あまり声かけをせず、出来る限り自然に何かをしたくなるような環境作り、ケアを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時にはなるべくコミュニケーションを多くとり、現在の状況を報告している。変化が見られた時には、その都度連絡し、ご家族の意見を聞きながら対応している。行事がある時にはご家族にも参加して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、地域の友人や親せきの方にも面会に来ていただいている。面会だけでなく、手紙の交換や外出もして頂いている。 今まで通っていた美容室や歯科、眼科などにも行くことができるよう対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方同士を隣の席にし、コミュニケーションがとりやすい環境づくりを心がけている。 居室ではなく、和室で休んでいただくなど、体力があまりない方も、他者の姿を傍で感じていただけるようケアに努めている。		

静岡県(グループホーム今日香 ほし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最後までお世話をさせていただいており、これから次の施設や病院に移る入居者がいないため、現在は行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や態度などから、本人の求めている事を少しでも読み取り、ケアに生かしていけるよう心がけている。困難な場合でも、こまめに声かけし、反応を見ながら対応している。また、入浴中や外出時など、1対1になると話をしてくれる方もいるため、状態に応じて対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人やご家族から情報を得たり、実際に住んでいた自宅へ訪問させて頂いたり、今日香で生活を送っている中で知り得た情報を、なるべく多くプランに取り入れるよう心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活記録に細かく1日の状態を残す事で、その日いなかった職員にも把握しやすいように努めている。また、フロアごとにノートを作り、変化があったら記入し、その後カンファや会議で話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今本人が困っている事を把握し、職員、ケアマネ、ご家族の意見を聞き、それらを取り入れながらプランを作成している。また、朝のカンファ時に1人ずつ1カ月評価を行い、変化が見られたら変更していくよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の様子を記入している。朝夕の申し送り時や、それぞれ気付いた事があれば、話し合ったり「なんでもノート」に記入して把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の希望があれば、外出や外泊、今日香に泊まっていただく事も出来るようにしている。また、状況によっては往診に来てもらったり病院に受診したりする事ができる。(24h対応)		

静岡県(グループホーム今日香 ほし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入しているため、何かあった時には協力してもらえるようになっている。地域の消防団の方にも防災訓練や会議に参加してもらっており、地域との関わりを少しずつ広げている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2回/W西遠クリニックより往診に来る。それ以外でも、状態に変化が見られた場合にも往診に来てくれたり、すぐ受診出来るよう対応してくれている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2回/1日 西遠クリニックの往診部より看護師が来てくれている。状態に応じてすぐDrへ連絡し、対応してくれる。また、職員が分からない事を質問すると、教えてくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはご家族と一緒に説明を聞き、対応している。退院までの間は出来る限りこまめに病院とご家族に連絡し、早期退院に向け対応している。 医療法人のため、ほとんど法人内で対応出来ており、あまり他院と関わることがない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に、看取りケアについての説明をしている。その上で、何かあった時に備え、往診部との関わりを多くとっている。状態が悪化した際にはその都度ご家族と話し合い、1つ1つ方針を決めている。24h体制をとっているため、ご家族にもご理解を頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故対策マニュアルを作成しており、勉強会も行っている。施設や地域の防災訓練時に、搬送訓練や応急処置の方法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3回/年 防災訓練を行っている。それぞれ、火災、地震、水害を想定した訓練を行っている。また、地域の方にも説明し、居室のドアの上部に色分けした飾りを付けてあり、それぞれに誘導方法が違ってもすぐに分かるようにしてある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人のその時の状態や気分に合わせて声かけや対応の仕方を変えている。重度の方に対しても、1動作するごとに声かけをし、その人の反応を見ながらその都度対応を変えてケアに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で本人の考えや思いが感じられるよう、声かけの仕方をその都度変えて本人が意思決定出来るよう、心がけている。重度の方に対しては、表情や仕草に注意し、本人の気持ちをくみ取る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者用の日程表を作らず、1日の決まりも決めず、その人らしい生活を送れるよう心がけている。みんなで何かをすることを嫌う方が多いため、歌をうたったり仕事をしたり散歩したりと、それぞれ自由に過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容に関しては、本人の希望がある時は美容院に行ったり、施設に来ていただいたりして対応している。化粧なども本人の希望で気分によって自由に行ってもらっている。髪型や髭の形など、こだわりがある方がいるため、希望をかなえてあげられるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平日の副菜のみ給食を利用しているため、盛り付け、配膳を入居者と一緒に行っている。食材を切ってくれたり、施設の庭にある菜園の野菜の収穫を一緒に行ったりする事もある。食後は自分の食器を自分で片付けてくれる方もいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量をチェックし、足りない分は他のもので補えるよう気を付けている。普通、キザミ、ミキサーの3種類に分け、状態に合わせて対応している。ムセがある方にはとろみを付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は行えておらず、お茶を飲む事で対応している。 起床時と入床時の口腔ケアは見守りで、介助が必要な方は一部介助、マウスケアを行っている。		

静岡県(グループホーム今日香 ほし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、1人ひとりの状態を把握し、座位の保てる人は無理のない程度にトイレでの排泄をしてもらえるようケアしている。状態によって、又は時間帯によってオムツとりハビリパンツを使い分ける事もある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	天気が良い日には散歩に行き、少しでも運動になるように心がけている。 食事でも、水分を多く摂ったり、おやつ時にはヨーグルトを食べてもらったり、おいもなどの繊維質の物を食べてもらうなど気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があればいつでも入浴する事が出来る。入浴チェック表に記入しており、あまりにも入っていない方に対しては、声かけをしている。拒否がある方に対しては、声かけの仕方や時間帯を工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は決めておらず、それぞれが自由に入床している。眠れないと訴える時には、少し話をしたり、添い寝したりして安心して休んで頂けるよう努めている。また、昼間に少し散歩などで体を動かす事で、夜間眠りやすくなるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの記録の中に処方箋を入れ、職員全員が把握できるようにしている。 状態に変化により薬が変わった時は、申し送りや連絡ノート、フロアノートに記入し、職員全員がすぐに把握できるよう対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や買い物、図書館で本を借りるなど、本人の希望に応じて対応している。 重度の方も、居室内に季節に合った物を置いたり、なるべくフロアへ来て他者と触れ合う時間を作れるよう心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば散歩や買い物、ドライブなどに出かけている。地域の祭りにも自治会の方達の協力で参加させていただいており、お酒や食べ物もいただいている。		

静岡県(グループホーム今日香 ほし)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が所持したいという時は、ご家族と相談した上で、本人に持って頂いている。買い物は自分の好きな物を選んでもらい、支払い時には、なるべく本人がお金を払えるよう声かけをしながらケアしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	TELの訴えある時にはその場で対応し、手紙が届いたら返事を書いてもらうなど、前もってご家族に確認をしておき、日々の対応を行っている。出来る限り、いつでも対応できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの家具が家庭にある物と同じサイズになっているため、不快感をあまり感じる事なく過ごしてもらえるよう工夫している。タペストリーや花、鯉のぼり、雛飾りなど、季節を感じられるような共有空間づくりを心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの席は、食事中も食事以外でも仲の良い人と話が出来るよう、工夫している。TVの周りをソファで囲み、くつろげる空間として使用して頂いている。フロア横の和室もその時その時に合わせて自由に使用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族と話し合い、本人が今まで使っていたなじみの物をなるべく多く持って来て頂くことで、本人にとって居心地の良い空間となるよう心がけている。居室内の家具などの配置も、なるべく本人が入居前に使用していた状態に近い配置にしてもらえるよう、お願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂は、入口の戸に文字を入れる事で、混乱することなく自立した生活が送れるよう、工夫している。また、いろんな所に手すりが付いているため、体力の低下している方にも対応出来る。		